

蝌斗 カイルコ 中 オタマジヤクシ 江戶 中略

春月池澤小水中ニ淡鼠色透徹シテ中ニ烏麻クゴマノ如キ小黑點アル者多シ長クシテ繩索ノ如ク丈餘ニ至ル是蟾蜍ノ胎ナリ蝦蟆ノ胎ハ圓塊ヲナシテ長カラズ大サ六寸許毬形ノ如シ色白シ小黒卵日ヲ歷テ漸ク大ニナリ科斗出色深黒ナリ蝦蟆ニハ白斑アリ皆初ハ頭圓大身ハ狹長ニシテ尾アリ稍大ナル時ハ尾脱シ足ヲ生ズ 略 下

〔四季物語 四月〕みくさ清きあせの夕くれは秋ならねどもあはれおほかれど蛙といふものはえせたるむしにて人の足になれ来てともすれば沓の下にしかれてうでをひしがれ身をあやぶむ律だつひじりなどは此比はあしをとむるもむづかしき身なるべし 略 下

〔沙石集 五上〕學生之蟻蝻之間答事

アル池ノ中ニ蛇ト龜ト蛙ト知音ニテ侍リケリ天下旱シテ池ノ水モ枯食物モナフシテウエテツレトナリケル時蛇龜ヲ使者トシテ蛙ノモトヘ時程オハシマセ見參セムト云ニ蛙返事ニ偈ヲ説テ飢渴ニセメラレヌレバ仁義ヲフスレテ食ヲノミ思フ情モ好モヨノツ子ノ時コソアレカハル時ナレバエマイラジトゾ返事シケル 略 下

〔塵袋 九〕一井ノ中ノカヘルト云フソノ説如何

莊子井蛙笑於海ト云ヘルコトアリ此ヨリイフ事歟

〔嬉遊笑覽 十二〕禽蟲蝦蟇を投て擲り殺し地に少坎を堀り車前草を襯シキて死たるかへるを其上におき又車前草を覆ひ小兒其周りに居てかへるどのお死にやつたおんばく殿の御とむらひと聲々にいひて祝マシテふに須臾ありてかへる蘇ヨイカヘる此事古き事と見えたり毛詩芣苢の郭璞が疏曰今車前草大葉長穗江東呼蝦蟇衣陸機草木疏にも車前草一名蝦蟇衣とあり本草啓蒙に車前カヘルは南都また漢名を擧たる内蝦蟇葉青浦懸志かれば陸奥にてカヘルハと云ふは彼兒戯より名づげて漢土の名に符合せ